

山梨県若者海外留学体験人材育成事業(大学生等コース)

県政の課題(テーマ)報告書

令和1年 8月 13日

山梨県知事 殿

氏 名 流石萌生
留 学 先 オーストラリア
留学期間 平成30年7月19日
～令和1年7月15日

1 研究の課題(テーマ)

燃料電池自動車の普及促進のために必要な取り組みについて

2 概要

与えられた県政の課題(テーマ)の解決に導く考え方及び対応策等

1. 山梨県における燃料電池自動車の普及の課題
2. それに対する解決策
3. まとめ

3 添付書類

詳細について、図・表・写真などの資料も含めてA4縦版5枚以内にまとめて報告してください。

※パソコン・ワープロの使用可(使用する文字は12ポイントとしてください。)

1. 山梨県における燃料電池自動車の普及の課題

まず、山梨県における燃料電池自動車の普及に向けての現在の取り組み状況を述べる。2025年までに燃料電池自動車の普及800台、燃料電池バスの普及10台を目指し、民間企業・公共交通機関への率先導入、燃料電池自動車ユーザーへの特典付与などさまざまな取り組みを行っている。水素ステーションの設備促進を図っている。設備費用の助成などの支援をしながら、誘致活動の促進を図っている。また、燃料電池自動車に対する認識が低いので、展示会や教育の場を訪れるなどして、燃料電池自動車の情報普及を図っている。

現在、山梨県内の水素ステーションは甲府市飯田にある、イワタニ水素ステーション甲府の1つだけである。これは隣県（静岡県・神奈川県）に比べると少ない。また「燃料電池自動車」という言葉があまり普及していないことも課題の1つであると考えられる。

また、山梨県が平成29年度末に県政モニターを対象に、水素を利用する主な機器である燃料電池や燃料電池自動車についてのアンケートを行った。その中の質問の中で問9に「あなたは燃料電池自動車を購入したいと思いますか」というものがあり、結果は以下のようになっていた。

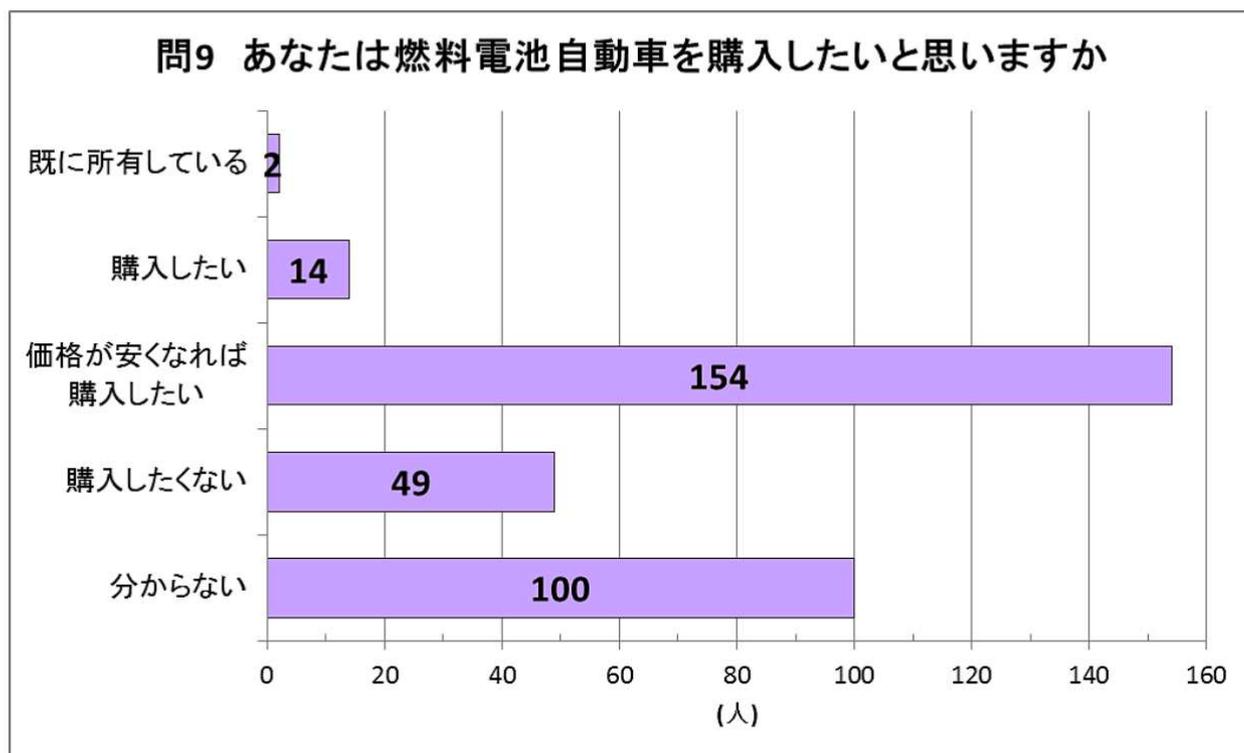


図1 問9の解答

さらに、問11では「燃料電池自動車は「水素ステーション」で水素を充填して走行します。現在、水素ステーションは、山梨県内では甲府市内に1箇所設置されています。水素ステーションの設置についてどう考えますか。」というもの

であった。結果は以下の通りである。

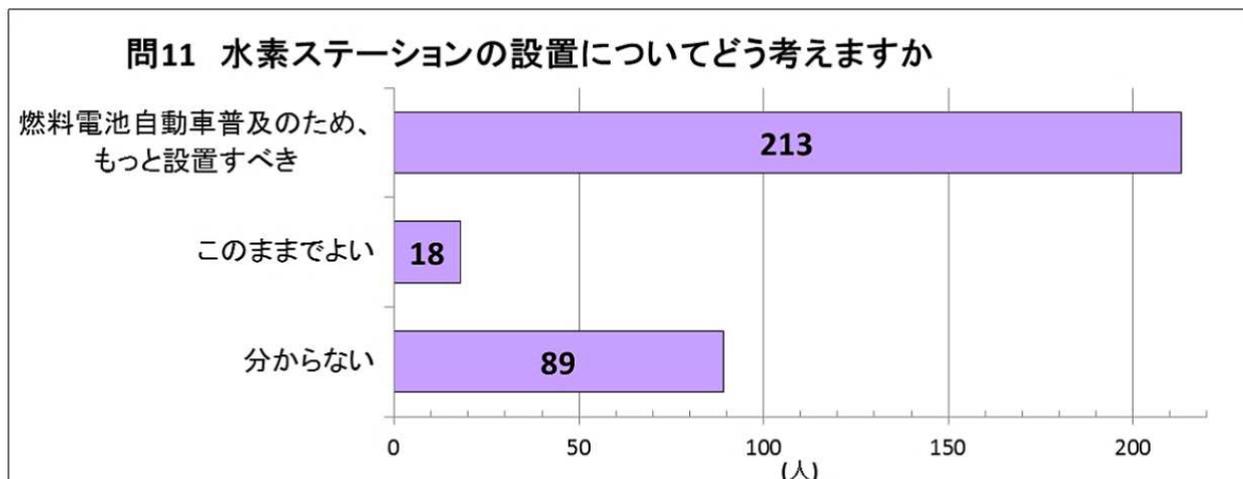


図2 問11の解答

この二つの問の解答からわかるように、「分からない」と答える人がかなり多い。そのことから、燃料電池自動車についてあまり知られていない現状があることが分かる。実際、わたしの周りにも燃料電池自動車について知らない人は多い。この事実は、山梨県における燃料電池自動車の普及の妨げになっていることが考えられる。よって、燃料自動車についての知識をもっと人々に持ってもらうということも課題として挙げられる。

2. 対策

① 専用 Web サイトを作る

今現在インターネットで「山梨県 燃料電池自動車」と調べると、山梨県の燃料電池自動車普及促進計画や山梨県燃料電池自動車導入支援事業補助金のご案内など、山梨県が行っている事業が一番トップに挙がってくるのが現状である。これだと、山梨県民の中で燃料電池自動車の購入を考えている人たちへの情報源になるには足りないと考える。なぜなら、現在の燃料電池自動車の普及状況やどんなメリット・デメリットがあるのかなどの細かい情報は分からないからである。その対策として私が挙げるのは、燃料電池自動車専用のブログ型の Web サイトを作ることである。先程述べたように、現在はそのような具体的な Web サイトというのがないので、まずその Web を作り、情報を発信していく形を挙げる。まず TOP ページは、燃料電池自動車の基本的な説明とともに写真を大きく出して、ファーストインプレッションで Web ページに訪れた人を惹きつける。基本的にその Web ページにはイベント情報や、燃料電池自動車のメリット・デメリットを詳しく説明するページを添付しておく。また、ブログ型で燃料電池自動車に関連したイベントのフィードバックをつけながら紹介していくととても意味のある Web ページ

になると考える。私がオーストラリアでインターンシップをしていた際に学んだことで、Web ページを訪れた人がどのような情報を欲しているのかや、どのような情報を載せたら食いついてくるかを考えると、燃料電池自動車に興味がある人々が実際に顧客に繋がる可能性があると考ええる。さらに、情報を SNS で拡散させることが出来たら、興味のない人々にも届く可能性はある。海外に行って、Facebook などイベントを探したり、Instagram で情報収集をする中で、SNS 社会が発展していることを十分に感じた。そして自分のような学生でもこの SNS 社会の波に乗り、より簡単に山梨県における燃料電池自動車の普及に繋がる活動ができると考えたので対策として挙げる。

② 試水素ステーションを作る

図 1 にある問 9 の「購入したくない」と答えた人の 14 人が水素ステーションが普及していないからという理由を挙げていた。たしかに、甲府に 1 つしか水素ステーションがないこの状況であると甲府市以外の人には購入をためらう可能性がある。甲府市の人口の次に多いのが、人口約 75000 人を誇る甲斐市である。そこで、私が注目したのが試水素ステーションの対策である。オーストラリアでも実際に行われている対策である。オーストラリアでは、首都のキャンベラにテスト水素ステーションを作り、ガスのネットワークに hydrogen を拡散させるための準備のためにクリーンな hydrogen をどのように存在させるか、どのような機器を使うかをテストした。このように試水素ステーションを作って様々なことをテストすることにメリットは多いと考える。甲斐市に試水素ステーションを作ることで、普及が少ない問題や馴染みがないという問題にも対応できると考える。この対策がかなり困難であることは十分承知している。だが、試してみる価値はあると思うのでこの対策を挙げる。

3. まとめ

この留学を通して、日本の、山梨の燃料電池自動車の普及についてだけでなく、オーストラリアの燃料電池自動車の普及について考えるきっかけとなった。両国ともまだまだ改善が必要であると感じました。それだけではなく、本当に様々なことを学んだとても有意義な留学でした。